



島地タクシー 有限会社
代表取締役

則安 聡一郎

かつてはプロレスラーを目指していたこともある則安社長。
紆余曲折を経て、カウンセラーや相談員として福祉業界で活躍するように。
現在は地域のタクシー会社の灯を守るべく、その舵取りを担っている。
一見どれも全く別の仕事だが、社長の根底にあるものはただ一つ。
「人をハッピーにしたい」という想い、そして「人」が大好きだということ。
これからも決して揺らぐことなく、貫き通していく。

**「人が好き、人をハッピーにしたい
その想いが変わることはありません」**

乗客の安全、従業員の安心を追求—— 事業を通して地域の未来を切り拓く

Company Profile

島地タクシー 有限会社

山口県山口市徳地島地 462-1

カウンセラーや相談員など福祉の世界で豊富なキャリアを蓄積した則安社長。そんな社長に白羽の矢が立ち、タクシー会社の舵取りを担うことになったのがちょうど3年前のことだ。「人をハッピーにしたい」という根底にある想い——それをかたちにすべく、従業員が働きやすい環境の創出など日々様々な挑戦を続ける社長のもとを、タレントの野村将希氏が訪れ、様々なお話を伺った。

——早速ですが、則安社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

ここ山口県出身です。タクシー会社を経営する父の背中を見て育ち、臆気ながらゆくゆくは父の会社を継ぐのかなと考えていましたが、一方で色々な世界を見てみたいという想いを持っていました。尊敬する学校の先生がいて、その方と一緒に教育現場に立てたらと考えていた時期もありましたが、ある時からプロレスラーを目指すようになりました。けれども残念ながらその道は断念し、スポーツ選手を支えられるような仕事がしたいと考えて専門学校に進み、リハビリなどを学ぶようになりました。ただ、学んでいく中で自分自身が想像していた世界と少し違うなと感じ、どんな仕事に就けばいいか分からなくなってしまったんです。

——お気持ちは分かりますよ。どんな業界が、どんな仕事が自分に向いているのか見極めるのはとても難しいと思います。それからどのような道に？

学生の時に、よく友人などの話を聞いて相談に乗っていたという経験があった

with guest interviewer



タレント
野村 将希

「周囲の方々の支えに感謝しつつ、『まだまだ私は社長になりきれていないと思います』と語っておられた則安社長。これまでの経験を活かして社長なりに確かな歩みを進めておられますから、立派です。タクシーは交通弱者の方の味方でもありますし、社会的意義の大きい事業ですから、これからもぜひ頑張ってくださいたいです」 野村 将希・談



ので、それならばとカウンセラーの道を志し一念発起して大学へ進学。その後、大学院にも進んで専門的に学んだんです。卒業後は児童相談所の相談員や、養護施設のカウンセラーなどを務めさせていただきました。その中で、想像以上に多くの人々が悩みを抱え、つらい経験をしていることを知り、何とかしたいという一心で日々一人ひとりと向き合っていました。けれども私が向き合うことができるのは、カウンセリング室だけ。部屋を出てからも、その人の人生は続いていく——もっと、一人ひとりに近いところで寄り添いたいと考えるように。そんな中、ご縁に恵まれて行政からの委託を受けて自立相談支援事業に携わらせていただくことになりました。それからある時、父から思いがけない依頼が舞い込んできて。——ほう。一体、どのような？

——ほう。一体、どのような？

こちらの『島地タクシー』の先代が、後継者がいないことで悩んでおられるということで、同じく徳地堀でタクシー事業を手掛ける父のもとに事業継承の打診があったのです。それで父が私に任せたいとのことで声がかかりました。

——ゆくゆくはお父様の会社を継承されることを考えられていたとはいえ、いざ会社の経営を任せられるとなると不安もあったのでは？

おっしゃる通りです。後を継ぐにしても、父のもとでしっかり勉強を重ねてから徐々に、と考えていました。それがいきなり、家業とは別の会社の舵取りを担うことになるとは思ってもよらなかったですし、最初は不安しかありませんでした。けれども私より不安なのは、従業員の方々のはず。これから引き続き、安心して働いてもらいたいという想いを持って、事業を継承させていただきました。幸い、従業員の方々にも私のことを受け入れていただき、協力して下さったことはとても大きかったですね。お陰様で、今年9月（取材時）には事業を継承して3年目を迎えました。

——代替わりによって従業員さんが離れていってしまう、という話をよく耳にします。その点、社長はそのお人柄が従業員の皆さんの信頼を引き寄せたのでしょうか。お話ししていると落ち着きますし、安心できますから。

ありがとうございます。これまで福祉関係の仕事をはじめ様々な経験を重ねてきましたが、いつも根底には「人をハッピーにしたい」という想いがありました。「人」が大好きなんです。これからもその想いは変わることはありません。



代表取締役
則安 聡一郎

——従業員さんに安心して働いてもらいたいという想いがあったとのことですが、何か具体的に取り組んでこられて？

タクシー会社は何よりお客様の安心・安全が第一ですが、従業員さんが仕事を「させられる」のではなく、自ら「働きたい」と思えて、かつ楽しく働ける環境をつくるのが大切だと考えました。そこで、従業員一人ひとりの話に耳を傾けて寄り添うことを心がけています。

——カウンセラーや相談員としてのキャリアが活かされているのですね！ ではお話も尽きませんが、最後に今後の展望はいかがでしょう。

人材の確保、育成が一番の課題です。「タクシーは料金が高い」というイメージを持たれがちですが、自家用車を保有することで維持費がかかることを考えれば、実はタクシーのほうが経費が安く済む場合もあります。若い方にももっとタクシーを身近に感じていただくことで、タクシードライバーという職業を選択してもらえるようになれば嬉しいですね。そしてこれからも福利厚生などに注力してより一層働きやすい環境づくりを進め、当社が地域で「働くために選んでもらえる会社」でありたいと考えています。（2020年12月取材）

Pick up the story

努力の先に

▼心理学を学ぶため、20歳の時に一念発起して大学に進学し、その後大学院でも学んだ則安社長。その裏には並々ならぬ努力があったはずだが、「もともとは努力することは嫌だったんです」と語る。ある出来事がきっかけで、物事の捉え方が大きく変わったのだという。専門学生時代、ちゃんこ料理店でアルバイトをしていた社長は集客のためにチラシ配りを頼まれた。だが当時人見知りだった社長は数枚配っただけで店に戻ってきたのだとか。店の人にそれを正直に報告すると、「チラシを配ることでお客様に来ていただけて、それで自分たちが給料をいただける。だからこそ努力しなければダメ」と教えられた。自分たちの生活は、努力の先にあるもの——そう知ることができた社長はそれ以来、勉強や仕事に対する考え方が変わったのだという。今でも社長は努力の先にある価値を求めて、走り続けている。